

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079400190		
法人名	有限会社 亀ハウス		
事業所名	グループホーム なごみ苑		
所在地	〒822-1201 福岡県田川郡福智町金田987番地	0947-48-3222	
自己評価作成日	平成27年09月28日	評価結果確定日	平成27年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>福智町のほぼ中心部にあるため地域の行事等に参加したり見学することができます。そのため多くの住民と交流できる環境にあります。できるだけその機会を持ち、ゆっくりと生活ができ安心して暮らせるように地域の方々とも支援していきたいと思っています。</p>

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	093-582-0294	
訪問調査日	平成27年11月06日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「なごみ苑」は、福智町役場、小学校、保育園、コミュニティセンター、交番が近隣に点在し、13年前に病院を改築した3ユニット(定員27名)のグループホームである。運営推進会議の参加委員の協力で、地域との関わりが増え、ホーム前のコミュニティセンターの行事や祭りに参加し、ホームの夏祭りにも地域の方や家族が参加し、地域密着型事業所としての交流の輪が広がっている。ホームドクターによる居宅療養管理指導を活用し、月2回の住診と看護師が訪問し、利用者の健康管理は、介護職員の気付きと合わせ、充実した医療連携が図られている。また、職員の休憩時間や勤務体制に配慮し、外部の研修会や勉強会に交代で参加し、職員の介護に対する意識と、介護力の向上を図り、職員一人ひとりの明るい笑顔と挨拶が、利用者の心を開き、楽しい雰囲気グループホーム「なごみ苑」である。</p>
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			1ユニット	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営						
dq d/	1	<p>理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>事業所理念を毎日朝礼後全員で唱和し実践につなげている。</p>		<p>ホームが目指す介護事業のあり方を示した理念を玄関に掲示し、毎日の朝礼後に唱和している。職員は、理念の意義を理解し、利用者一人ひとりの個性や生活習慣に合わせた介護サービスを提供し、地域密着型グループホームとして、地域との繋がりを大切にしている。</p>	
	2	<p>事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地区の組に加入し近くの商店から苑で使用する物は購入し、その地区の一員として参加できることは参加して交流している。</p>		<p>町内のコミュニティセンターが目の前にあるので、大正琴やフラダンス等のボランティアの来訪がある。町内会に加入し、文化祭に毎年利用者の作品を出展し、会場準備に協力する等、地域の一員として交流している。また、ホームで使用する食材や物品は、地域の商店で購入するようにしている。</p>	
	3	<p>事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地区の区長や民生委員、町の福祉課に対して苑だよりを毎月発行し認知症の人の理解や支援について活かしている。</p>		/	
	3	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は二ヶ月に一度開かれ、利用者の現状、介護度等を報告、町の介護施設に対する行事予定を知らせてもらいサービス向上に活かしている。</p>		<p>会議は2ヶ月毎に開催し、現在まで55回の実績がある。会議の中で、ホームの現状や取り組み、ヒヤリハット、事故の報告を行い、参加委員から、地域の情報等を受け、サービスの向上に活かしている。</p>	
	4	<p>市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>町の福祉課職員とは、推進会議以外に保険証の更新時、障害者手帳、年金その他町での行事等で施設の実情や取り組みを伝えている。</p>		<p>行政主催の行事や会議に参加し、情報交換を行っている。管理者は、各種手続きに行政窓口を訪問し、空室や利用状況を伝え、行政と連携を図っている。また、運営推進会議に、町役場の福祉課職員が出席し、ホームの現状を伝え、助言や情報提供を受けている。</p>	
	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束をしないケアの実践については毎月の勉強会やユニット会議等で具体的な事例を出し、話し合い理解してもらい実践に取り組んでいる。</p>		<p>毎月開催する職員会議や勉強会の中で、身体拘束に関する具体的な禁止行為についての事例を検証し、職員全員が、拘束が利用者にも与える影響を理解し、言葉や薬も含めた、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。</p>	
	7	<p>虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待の防止については毎月の勉強会で学ぶ機会を繰り返し作ると共にケアの中でボディーチェック等しい虐待や暴力行為防止に努めている。</p>		/	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度については町の実施する学習会に参加し継続的に苑の勉強会でも職員ひとり一人が理解、実践していく。	行政主催の勉強会の中で、権利擁護に関する制度について学んだ職員が、ホーム内の勉強会で報告し、知識、情報を共有している。日常生活自立支援事業や成年後見制度が重要な制度である事を理解し、資料を用意して、利用者や家族から相談があれば、何時でも支援出来る体制を整えている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約時に重要事項の説明や施設での生活について質問、疑問等十分説明をし理解・納得してもらっているし継続的に苑内での生活状況を苑だよりと共に送付している。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様とは日々のコミュニケーションや会話の中で意見や要望を出して頂ける体制を作りご家族には面会時や苑便りを通して意見や希望等がしやすい体制を作り運営に反映させるよう努力している。	職員は、利用者と日常会話の中から思いや意向を聞き取り、介護の実践に活かしている。また、家族面会や行事参加の時にコミュニケーションをとり、利用者の近況や健康状態を報告し、家族の意見や要望を聞き取り、ホーム運営に反映させている。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月々の勉強会等で意見や提案を聞き反映させるようにして代表者、管理者に報告している。	毎月第1木曜日の17時半から全員参加で職員会議を開催している。職員の意見や要望、提案等を聴いて、出された案件が出来るだけホーム運営や業務改善に活かせるように工夫し、職員の意欲に繋げている。また、毎日の朝礼時に、職員の気付きや気になる事を話し合い、速やかに解決に向けた取り組みをしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者や管理者には個々の職員の努力や実績、勤務状況を報告している。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に排除してはいない。職員についても自己実現の権利は保証されるよう配慮している。	職員の休憩時間や希望休、勤務体制については、柔軟に配慮し、職員の特技や個性を活かした勤務体制を整え、生き生きと働ける職場環境を目指している。また、新人研修やスキルアップ研修を行い、職員の介護力を高め、資格取得のためのバックアップ体制も整えている。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎月の苑での勉強会や本部での2ヶ月に1回の学習会で人権等の啓発に取り組んでいる。	法人本部やホームの勉強会の中で、利用者の人権尊重について職員一人ひとりが学び、利用者への尊厳を守る介護について話し合い、言葉遣いや対応に注意して、利用者が安心して暮らせる介護に取り組んでいる。また、毎日理念を唱和し、職員は常に理念を意識しながら、利用者の人権を尊重した介護の実践を目指している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ひとり一人のケアの実際と力量を把握しその時々に応じた研修を受けられるよう取り組んでいる又、日々のケアの実践でもトレーニングを行っている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は毎月のグループホーム協議会の中や町主催の学習会で交流しているが相互訪問等の活動はできていない。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が新しい施設での生活をする前に家族、友人等を含めて今までの生活歴、病歴等の確認今後の要望等を話し合っている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とも不安や要望等を話し合い今後の苑での方針を説明し安心して頂ける様努力している。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族との話し合いの中で十分な説明を行い今、現在の必要なサービスの説明をしている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人心身の状況を把握し出来る事はやって頂き暮らしを共にする者同士の関係を築くよう努力している。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来て頂きやすい環境づくりや面会時に本人の近況報告を行い共に本人を支えていく関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活歴をしっかり把握しできるかぎりの支援を行えるよう努力している。	入居前に住んでいた利用者の自宅を一緒に訪ねたり、利用者の馴染みの美容室に髪染めに行くなど、出来るだけ、一人ひとりの馴染みの関係を大切に、これまでの関係が継続出来るよう支援している。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し苑内での生活を楽しく過ごせるように居室の位置も配慮して支えあえるような環境を作っている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談や支援に努めているが現実には終了後はほとんど接触が無い。今後は本人経過についてもこまめに連絡を取り支援に努めたい。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとり一人の思いや希望、意向の把握に努めているが困難な場合は家族やユニットスタッフで話し合い本人本位に検討している。	アセスメントを活用し、職員は日頃の会話の中で、利用者の思いや意向を聴きだし、職員全員で共有している。意思を伝えることが困難な利用者には、家族に相談したり、職員が諦めずに利用者寄り添い、話しかけ、表情や仕草から、利用者の思いに近づく努力をしている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人、家族等に聞き取りを行い生活歴や生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。それに基づいて今後のプランを検討している。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、バイタルチェックや心身状態の確認をおこなうと共にその日の過ごし方等の支援をしている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に担当スタッフユニットスタッフで課題やケアのありかたについてカンファレンスを行いその上で本人、家族、必要な関係者と話し合い意見やアイデアを反映し介護計画を作成している。	担当職員は、利用者や家族と話し合う機会を設け、意見や要望を聴き取り、カンファレンスを開催し、職員間で利用者一人ひとりに合わせた介護計画を3ヶ月毎に作成している。また、利用者の重度化に合わせて、家族と連絡を取りながら、利用者本位の介護計画をその都度作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の記入により職員間で情報を共有し次回の介護計画に活かしている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応して柔軟なサービスに取り組んでいくようにスタッフ全員で意見を出し合っている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の十分な把握がまだできていない。地域の中での利用者の生活に職員、家族共に意識していく必要がある。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を大切に適切な医療を受けられるよう支援している。	契約時に利用者や家族と話し合い、かかりつけ医とホームドクターを選択してもらい、かかりつけ医の受診は原則家族にお願いしている。月2回の協力医療機関による往診と、月2回の訪問看護と協力し、情報を共有して、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪問している看護師に情報や気づきを伝え個々の利用者が適切な医療を受けられるように支援している。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は病院関係者と情報交換や相談を行い安心して治療できるよう努めていると共に居宅療養管理の医師、看護師との情報交換を行い関係作りに努めている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から本人、家族等には事業所でできることを十分に説明し方針を共有している。	契約時に利用者や家族と話し合い、希望を聞き取り、重度化が進んだ場合の支援体制について説明し、了承を得ている。利用者の重度化に伴い、家族と主治医を交えて今後の方針を話し合い、利用者や家族が安心して終末期を迎えられる環境を整えて、支援出来るように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変の事故発生時に備えた指導は行っているが全ての職員が対応出来るわけではなく定期的に行う必要がある。			
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策については職員の知識、地域との協力関係がまだまだ遅れている。現在は避難訓練を定期的に行い職員の自覚と地域との協力関係を築く努力をしている。	消防署の協力を得て防災訓練を定期的に行い、夜間3人の職員で、利用者を避難場所に安全に誘導出来るように努力しているが、地域住民の協力と、非番の職員の駆けつける協力体制を今後の課題とし、火を出さないための防火意識にも、職員一人ひとりが取り組んでいる。	避難訓練は行っているが、いざという時に備えて職員全員が真剣に取り組み、地域住民の参加を要請し、利用者全員を安全に避難場所に誘導出来る体制を確立していく事を期待したい。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを損ねない言葉や対応を心がけているがまだまだできていない事が多い。	管理者は、職員の言葉遣いや対応について、常に注意しながら指導し、利用者が安心して暮らせるホームづくりに取り組んでいる。また、共同生活の中でプライバシーを守る事の難しさを理解し、職員一人ひとりが自覚して、利用者のプライドや羞恥心に配慮した介護の実践を目指している。		
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者自身が希望を表せたり自己決定できる人は支援できるが大部分の利用者が表出できていない。			
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り一人ひとりのペースを大切に一日を過ごして頂けるよう努めているが職員本位になってしまっている時もある。			
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している。			
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と共に楽しく会話をしながら食事をしている、片づけや食器拭き等もできる利用者とは一緒にやっている。	厨房で調理した美味しい料理を提供し、職員は弁当を持参し、利用者と同じテーブルと一緒に食べている。検食を1名の職員が行い、検食簿に記録して、より美味しい食事が提供出来るよう取り組んでいる。片付けや食器拭き等、出来る事は一緒に行っている。また、少人数に分かれて外食にも出かけている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態を把握したべる量や栄養、バランス、水分量を確保できるよう支援している。			
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについては清潔保持できるよう毎食後利用者一人ひとりに応じたケアができています。			
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレチェック表等を使用し排泄のパターンや本人の力を把握しその人に合わせた支援を行っている。	トイレでの排泄を基本とし、職員は、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握し、さりげない声掛けやトイレ誘導を行い、トイレでの排泄の支援に取り組んでいる。また、水分や野菜の摂取量に注意し、主治医や看護師に相談しながら、排便コントロールを行っている。		
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便のチェックを行い働きかけに取り組むと同時に往診Drに相談し下剤でのコントロールもやっている。			
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の都合で入浴を決めている事が多く一人ひとりの希望やタイミングで行っていないため個々にそった支援が行えるようにしたい。	職員の勤務体制や、その日の利用者の状態により、入浴時間を変えたり、清拭や足浴に変更して、入浴が利用者の負担にならず、楽しく入浴出来るように取り組んでいる。また、入浴を拒む利用者には、時間をずらしたり、職員が代わって声掛けし、無理強いのない入浴の支援に取り組んでいる。		
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりその時々状況に応じて休息や安心して眠れるように支援している。			
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援については理解、把握しており、症状の変化等もケース記録に残し、変化があった場合はその都度医師や看護師と連携をとっている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気分転換等の支援はできているが嗜好品については限りがある。			
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりのその日の希望に沿っての外出支援は出来ていない為、今後は本人の希望を把握し家族や地域の人々協力し支援していきたい。	2、3人の小グループに分かれて回転ずしや、うどん屋に出かけたり、運動会や夏祭り等の行事参加に取り組んでいる。また、気候の良い時には、近所の散歩や買い物に出かけ、季節を五感で感じてもらい、利用者の気分転換に繋げている。		
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の理解度にもよるが希望や力に応じて数名は支援出来ているが全員はできていない。			
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望や要望がある方や職員が支援をすることで出来る方には支援できているが全員ではない。			
54	22	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は利用者が居心地よく過ごせるよう努力している。	病院を改築した3ユニットのホームには、熱帯魚の大型水槽、季節の生花、壁には手作りの作品を飾り、季節感や生活感を大切にして、温かな雰囲気作りに取り組んでいる。職員間で役割分担を行い、責任を持って清掃に取り組み、清潔で、利用者が気持ち良く過ごせる共用空間である。		
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者にあった居場所の工夫はできている。			
56	23	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と相談しながら居心地よく過ごせるよう配慮している。	利用者が長年愛用してきた家具や仏壇、大切な身の回りの物を家族の協力で持ち込んでもらい、自宅と違和感を感じない環境を整え、利用者が安心して穏やかに生活できるように支援している。また、室内は清掃が行き届き、整理整頓され、利用者が居心地良く暮らせるよう工夫している。		
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力を活かし安全かつできるだけ自立した生活が送れる様工夫している。			